

	東京都	公立	
M小学校			E先生

◆活用内容

1年生「ひきざん」

ねらい「具体物の操作活動を通して、繰り下がりのある減法の計算の仕方がわかる。

実践の様子

- ・ひき算の学習を思い出し、本時の問題をつかむ。

「たまごが13こあります。9こつかうと、のこりはなんこでしょう」

- ・式を作る。「 $13 - 9$ 」

* $13 - 9$ のような計算をどのようにしたらよいのか考えよう。

- ・具体物を使って問題解決の見通しをもつ。

- ・考え方1 $13 - 9 = 10 - 9 + 3$

$$= 1 + 3$$

$$= 4$$

- ・考え方2 $13 - 9 = 13 - (3 + 6)$

$$= 13 - 3 - 6$$

$$= 10 - 6$$

$$= 4$$

- ・考え方3 数え引きで4

- ・まとめ $13 - 9$ のような計算は、10のたばと3のバラと見て、引いていけばよい。

(間違いが少なく、計算も楽になる)

- ・繰り下がりのあるひき算の計算の仕方を確かなものにする。練習問題

◆成果・児童の反応

子どもたちは、見た目にもいつもと違う教材を使ったということで、普段より意欲的に学習に臨んでいた。

5のまとまりで色が違うので、5や10のまとまりで考えることができ、分かりやすい。

10のまとまりで考えるよりも、5のまとまりを色覚的にとらえられることができるこの百玉そろばんはとても効果的であった。

子どもたちからはもっとそろばんを使ってやりたいという声が上がっている。

◆実践ポイント

数をまとまりで考えることが苦手な子どもたちにも、色に注目させることで自然にまとまりとしてとらえさせる。計算は、間違いが少なく計算が楽な方がよいことを実感させる。